

|                  |   |
|------------------|---|
| Title            | アダム・スミスの価値論に就いて(一)  |
| Sub Title        |   |
| Author           | 加田, 忠臣  |
| Publisher        | 慶應義塾理財学会  |
| Publication year | 1919  |
| Jtitle           | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.13, No.6 (1919. 6) ,p.784(120)- 793(129)  |
| JaLC DOI         |   |
| Abstract         |   |
| Notes            | 雑録  |
| Genre            | Article   |
| URL              | <a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19190601-0120">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19190601-0120</a> |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

次に余が本節に於て暫々言及したる生物的感  
情と經濟的史觀論との關係に就て論せんと欲  
す。

(附記) 前號にて人種學的感情及び生物學的感情となしたる  
は、すべて人種的感情及び生物的感情の誤謬なり。

(註一) Max Stirner:—"The Ego and his Own"(trans. by  
S. T. Byington.) p. 9.

(註二) Adam Smith:—"The Wealth of Nations"(Ed. by  
E. Cannan.) p. 16.

(註三) P. A. Kropotkin:—"Mutual Aid," popular edition,  
p. 13.

田中孝一郎氏「ソロキヤムの史觀」(三田學會雜  
誌第九卷第四號所載)參照

(註四) Darwin:—"The Descent of Man," 2nd edition,  
p. 163. (前掲 Spargoo著書八二頁より引用)

(註五) Kropotkin:—op. cit p. 141.

(註六) W. Wundt:—"Elemente der Völkerpsychologie,"  
Zweite Auflage, S. 13.

(註七) Engels:—"Socialism, Utopian and Scientific,"(Pub.

by Charles H. Kerr of Com.)

(註八) E. Bernstein:—"Evolutionary Socialism,"(trans.

by E. C. Harvey.) p. 18. Note.

(註九) ditto. p. 18.

(註一〇) Boudin:—"Socialism and War,"河上博士抄譯「

社會主義者の觀たる世界大戰の眞因」に依る。社會  
問題研究第三冊、第五冊所載

(未完)

## アダム・スミスの價值 論に就いて(一)

加 田 忠 臣

一、スミス價值論の要領(本號所載)

二、スミス價值論の本質

三、勞働價值論に於ける勞働の意義

(一)

「アダム・スミスは其時代に於ても組織的學理

の緻密なる建設者に非ず。彼が他の時代に其の  
生を享けたりとするも同一の運命に逢着せしな  
るべし。彼は家を見て町を見ず木を見て森を見  
るに失敗せり。されど彼が家と木とに精通せる

は驚嘆に値す」とのダヴンポートのスミス評は

少くとも彼の價值論を通讀せる者の肯ずる所な  
るべし。(註一) スミスの價值論は國富論中最も

難解なる部分の一にして、其要領を捕捉するだ  
に容易の業にあらず。本篇に於て論せんとする

所は複雑錯綜せるスミスの價值論の眞意が何處  
にありやを決定するにあり。されば、以下予は

先づスミスの所論を正確に記述し、然る後他の  
研究資料を參照してスミスの眞意を明かにせん

と欲す。(註二)

(一) Davenport: Value and Distributi. n, p. 29.

(二) アダム・スミスの價值論に就きては本誌第五卷第三

號アダム・スミス記念號に氣賀教授の「アダム・スミ

スの價值學說」あり。又本誌第七卷第一號に河上教授  
の「アダム・スミスの價值論に就いて」なる論文あり。  
故に余は記述的部分は極めて簡單となすべし。

(二)

價值及び價格に關するスミスの説は之を四部  
より成立すと見ることを得べし。第一は價值の

成立、其二は價值及び價格の標準、其三は價格と  
所得分配との關係、第四は分配論其ものなりと

す。價值の成立要素と之を秤量すべき標準尺度  
とは別種の概念なり。さればスミスは國富論第

一卷第五章に於て價值は勞働によりて發生すて  
ふ命題を出發點として交換價值の標準論に同意

全部を費せり。然るに、價值の成立と價值の秤  
量の標準とは其内容を異にす。價值秤量の標準

は、スミスに據れば、勞働、穀物又は貨幣なり。  
然るに價值の成立は勞働を以て基本的要素とな

すなり。其分配論と關係を有するは勞働に依り

て發生したる價值が如何に社會の諸階級間に分配せらるるやを論述する所にあり。而して、スミスは價值の分配が資本家、地主並に勞働者に對して行はるるを見たりしを以て、分配と價格

とを論ずる條に於ては分配の綜合的研究を試みしが、價值の分配せらるる諸要素——利潤、地代並に勞銀——の分析的研究所をなすことなし。されど、徹底的に分配の綜合的研究を行ふ爲めには、分析的研究所個々の分配要素に就きての研究を必要とす。故にスミス自身も價值の成立並に其分配に就きては、國富論第一卷第五章の一部、第六章並に第七章の全部を割き、價值分裂の諸要素の分析的研究所に對しては、第一卷第八章より第十一章に至る四章に勞銀、利潤、地代並に其相互關係を研究せり。従つて、スミス、價值論の全體に涉りて批評を加ふるには、以上の四項に就きて細論するの必要あるべし。

本論の目的とする所は單にスミスの價值學説が勞働價值説なることを論證するに存するを以て以下價值成立の原理に就きてのみ叙述せん。

(三)

アダム・スミスに據れば價值なる語は二つの意義を有せり。一は物の利用を意味し、二は物の所有が其所有者に與ふる物の購買力即ち物の交換能力を表はせり。一は使用價值 Value in use 他は交換價值 Value in exchange or exchangeable Value と稱す。(註一)斯の如くスミスが價值を分ちて使用及び交換の兩種となせるはアリストテレスに始まる傳統的分類なるも、彼が國富論中に論せる所は物の相對的價值、即ち交換價值のみにして、使用價值は其名目を留むるのみ。即ち彼の研究所は交換を前提とせる價值現象にして彼自らも其事を明言せり。(註二)

(一) Smith: Wealth of Nations, (Cannan's Edition) Vol.

p. 30. 以下引用は特に附言せざる限りキヤナン校定本に據るものと知られ度し。

(二) Smith: op. cit. Vol. I. p. 30.

(四)

スミスに據れば、人の貧富は人生の必需品、有用品、並に享樂品を享受し得る程度如何にあり。而して分業の一般に行はるるときは、各個人は自己の勞働のみを以て、其欲求の全部を充足すること能はずして、其欲求の對象の大部分をば交換過程を経て獲得することを要す。故に、貧富の程度は各個人の支配し、又は、購買し得る勞働の分量に比例す。(註一)「故に、物の價值は之を所有し自ら消費せず、他の物と交換せんとする人に對しては其物によりて購買又は支配し得る勞働の分量に等し。故に勞働は、すべての物の交換價值の眞の秤量なり。」(註二)

眞實の價格は、之を獲得するに要する勞力と勞務 Toil and trouble となり。而して物を獲得し、他物と交換せんとする人に對する物の眞實の價值は、物に依つて所有者が省き得る勞力又は其物によりて、他人に賦課し得る勞力なり。貨幣又は貨物よりて購はれたるものも結局皆な勞働によりて購はれたるなり。何となれば、貨幣又は貨物は一定量の勞働の價值を含有し、等量の價值を有すと想定せらるるものと交換せらるればなり。故に勞働はすべてのものに支拂はれたる原始的購買貨幣 Original Purchase-Money なり。(註三)

(一) Smith: op. cit. Vol. I. p. 32.

(二) Smith: loc. cit.

(三) Smith: loc. cit.

即ちスミスは價值の起因を勞働に求め、之を二つの方面より觀察せり。其一是生産行程にして、其二是交換行程なり。生産行程より價值を

見るときは、價值は其物の生産に費されたる労働の分量にして、交換行程に於ける價值は其物によりて支配せられ又は購買せらるる労働の分量に依りて定まる。而して生産行程に於て費されたる労働の分量と交換行程に於て支配せらるる労働の分量とは相等しと解せるが如し。

## (五)

以上の叙述は後段論證する如く余が以てスミス價值學說の眞意なりとする所なるもスミスは價值論中特殊經濟狀態より見たる價值現象を論じ、三つの階段に之を分てり。其經濟狀態は生産要素の有價的結合より見たるものなり。第一は原始的經濟組織なるが、此時代には労働のみ生産の有價的要素にして、土地又は資本の私有制度なるものなし。第二は資本の私有始まり労働者と資本家との別生じたる時代にして、此時代には有價的生產要素として労働及び資本の二

種を數へたり。第三は労働、資本の有價的要素以外に土地私有制度を含める經濟組織の時代にして労働、資本並に土地は各々労働、利潤並に地代なる報酬を受くるなり。この時代は最も進歩したる時代にして、スミスの時代には、多少の例外を除き、既にこの時代に到達せるものとせるが故に、彼の價值、價格學說の對象たる價值現象は主としてこの時代を中心とせり。

一、私有財産の存在せざる時代。スミスの言を借りて言へば、「資本の集積と土地私有が未だ起らざる以前の原始草昧の社會」(註一)にありては、各種貨物の交換比率を定むる唯一の條件は其物の獲得に必要な労働の分量間に存する比例なり。例へば狩獵民族の間に於て河狸一匹を捕ふるに二日、鹿一匹を捕ふるに一日を費すとせば、河狸一匹の價值は鹿二匹に當る。(註二)而して、甲種の労働が乙種の労働よりも困難なる

ときは前者の一定量は後者の同一量と交換せらるることなし。例へば、甲種労働を以て一時間に生産せるものは、乙種の労働を以て二時間に生産せられたるものと交換せらる。熟練、知能の程度を異にする労働に於ても亦同じ。要するにスミスも單純労働と複合労働との觀念を有せしが如し。

斯くの如き狀態にありては、労働の全生産物は労働者に歸屬す。而して、物を生産し、又は、獲得するに費さるる労働の分量は其の物が購買し、支配し、又は夫れと交換せらるべき労働の分量を決定すべき唯一の條件なり(註三)

(一) Smith: op. cit., vol. 1, p. 49.

(二) Smith: loc. cit.

(三) Smith: op. cit., vol. 1, pp. 49-50.

二、資本の私有制度の時代。資本の私有せらるるときは其所有者は之を放下して、利潤を獲

得せんとす。故に生産物の原料並に労働者を補償する以上の價值を獲得せざるべからず。即ち労働者が原料に附加せる價值は二分せらる。其一是労働を支拂ひ、他の一は資本家の前貸せる材料の資金と労働とに對する利潤を支拂ふ。(註四)斯かる利潤なきときは、資本家をして、其資金を放下せしむること難し。故に資本の利潤も貨物の價格の一部分を構成するものなりとす。

斯くの如き狀態に於ては労働の全生産物は常に必ずしも労働者に歸屬せず。労働者は彼を雇傭する資本家と其生産物を分割す。物を生産又は獲得するに費されたる労働の分量は之れに依つて支配し又は之と交換し得る労働の分量を決定する唯一の原因にあらず。この價值の増加は資本利潤によりて生ずるものなり。(註五)

(四) Smith: op. cit., p. 50.

(五) Smith: Ibid., p. 51.

(六) Smith: op. cit., vol. I, p. 51.

(六)

三、完全なる私有財産制度の時代。資本土  
 共には私有せらるゝ時代に入るときは、土地所有  
 者は土地の使用に對して一定の地代を要求す。  
 かゝるときは、労働者は土地の使用に對する地  
 代の爲に、其生産物の一部を提供する要あるべ  
 く、この部分は地代を構成し、大部分の貨物の  
 價格の第三要素となるなり。(註六)

進歩せる經濟組織の下に於ては、總ての貨物  
 の價格は勞銀、利潤並に地代を以て構成せらる。  
 而して勞銀及び利潤の二者にて成立するもの  
 は、稀れにして、勞銀のみの價格は極めて少し。  
 故に貨物の價格は三要素にて成立するを普通と  
 す。而してこの價格の三要素も亦、其各個が支  
 配し又は購買し得る勞働の分量によりて、測定  
 せらる。勞働は勞働に與へらるゝ價格の部分の  
 價值を秤量するのみならず、地代及び利潤に與  
 へらるゝ價格の部分の價值をも測定するなり。

以上論せる所は價格の靜態的研究にして、其  
 前提として、交換經濟並に經濟單位間に於ける  
 完全なる自由競争を假定す。交換經濟は充分な  
 る分業の發達を前提とし、完全なる自由競争の  
 市場とは、物の賣買に就いて、何等抑壓なき市  
 場を言ふ。

價格の要素たる勞銀並に利潤は各社會に於て  
 又、各職業に於て一定の自然率 Natural rate な  
 るものを有せり。自然率は平均率又は通常率と  
 も稱せられ、社會の貧富及び進歩的、停滯的又  
 は衰退的狀態に依り、又は各職業の特殊的性質  
 に依りて、自然に決定せらる。地代も亦其地位、  
 豊度並に社會的狀態に依りて、自然的に決定せ  
 らる。

物の價格が其物を市場に供給するまでに要す

る地代、勞銀並に利潤を其自然率に依りて補償  
 して過不足なきときは其價格を自然價格 Natural  
 price と稱す。(註二) 自然價格は物の眞の價格  
 にして、普通の用語にて價格と稱するは其内利  
 潤を包含することなきが如きも、利潤なき賣買  
 は決して賣手の利益にあらず。何となれば利潤  
 は生産者の収入又は生活資金にして、彼は尙ほ  
 放下資本に對する利潤をも獲得せざるべからざる  
 ればなり。故に利潤を包含する價格は、賣手の  
 最低價格にはあらずも、相當の期間を取ると  
 き且つ完全なる自由競争即ち轉職の完全なる自  
 由を前提とするときは、この價格は最低のもの  
 なりと言ひ得べし。

(1) Smith: op. cit., vol. I, p. 57.

貨物の通常の實際價格を市價 Market price と  
 云ふ。市價は自然價格以上たることあり、又以  
 下たることのあると同時に、之と一致すること

もあり。貨物の市價は實際市場に齎さるゝ貨物  
 の分量と貨物の自然價格即ち勞銀、利潤、地代  
 を支拂ふべき人の需要との比例によりて定めら  
 る。(註二) 斯くの如き需要者を有效的需要者  
 Effectual Demander と稱し、欲求のみを有して購  
 買力なきものを單に需要者と云ふ。單純なる需  
 要者は經濟生活上何等の活動を齎らすとなし。

(1) Smith: op. cit., vol. I, p. 58.

市場に於ける貨物供給量が有效的需要を超過  
 するときは自然價格を支拂ふ購買者に其全供給  
 量を販賣すること能はず。故に其一部は自然價  
 格以下に販賣するを要す。従て全量の價格をば  
 供給量に比例して自然價格以下に低下せしむる  
 に至るなり。

貨物の供給量が有效的需要量と確的に一致す  
 るときは、市價は自然的に自然價格に一致する  
 か又は之れに近附くに至る。而して各貨物の分

量は有效的需要量に一致するに至る。何となれば供給と需要とが一致することは地主、労働者並に資本家の利益にして、供給が有效的需要に決して超過せざるを利とす。而して有效的需要に對して供給が不足せざることはすべての人の利益なり。

かくて、自然価格は中心價格 (Central price) にして、すべての價格は此中心價格に吸引せらる。或種の事情によりて價格は自然價格以上に騰り又は夫れ以下に下る。然れども如何なる事情の下にあるも價格は常に自然價格に吸引せらるゝ傾向を有せり。市價は自然價格以上に長く留ることあるも永く其以下に留まること難し。何となれば完全なる自由競争の許さるゝときは、價格が自然價格以下に止まることによりて、影響を受くる生産要素の所有者は之れを他の需要多き方面に移すべければなり。されば需要供給の

關係は市價をして自然價格と一致せしむるに至る。而して自然價格其ものも其構成部分たる勞銀、利潤及び地代の自然率に從て變動し、自然率は社會の状態によりて變動するものなり。

(七)

斯く市價は自然價格と一致する傾向あるに拘らず或種の價格は人爲的又は自然的現象の爲に永く自然價格以上に留ることあり。此種の價格を獨占價格 Monopoly price. と云ふ。

第一の場合には需要の増加の爲に、市價の騰貴したるときにして、生産者は可成かゝる事情を一般世間に周知せしめず、獨り利益を獲得せんとす。かゝる價格も一種の獨占價格なるも永續すること難し。

第二は製造業に於ける秘密にして商取引の秘密よりも永續す。例へば特殊の製造方法を發明せる者は其の爲に獨占價格を保持することを得

るなり。かゝる獨占價格は其特殊労働に對する報償にして其全資本に對して一定の割合を保ち特殊資本利潤として考へらる。

自然の生産物には土壤並に地位の特殊的性質を有するものあり。かゝる場合も亦獨占價格の現象を見る。其價格中獨占的性質を有するものは地代にして自然率以上に支拂はる。かゝる市價の上騰は自然的原因によりて惹起せらるゝものにして、永續的性質を有せり。

個人又は會社に與へられたる獨占權は商工業上の秘密と同一の結果を生ず。獨占者は常に市場に對する供給を減じ、貨物を其自然價格以上に販賣せり。

獨占價格はすべての場合最高のものにして自然價格即ち自由競争の價格はすべての場合とは言ひ得ざるも、長期を取るときは最低の價格なり。獨占價格はすべての場合購買者より掠奪し

得る最高の價格にして、購買者が支出し得べき最高の價格なり。然るに自然價格は販賣者の提供し得、其業を繼續し得る最低の價格なり。以上はスミスの價值學說中價值、價格の成立に關する部分の大要なり。

(未完)

### 財政經濟評論

浪 速 次 郎

税制整理問題 政府は一方に於て歳入の増加を圖り、又一方に於ては租稅負擔の不公平を匡正する目的を以て、税制整理の調査を開始したと傳へられてゐるが、大藏省の當局が目下第一着に改正を要すると認めてゐるは營業稅並に所得稅であると云はれてゐる。吾人は當局者が如何なる程度の改正を此兩國稅に加へんとしてゐ